

令和7年度 文京区障害者地域自立支援協議会

第2回 権利擁護専門部会 次第

日時：令和7年11月5日（水）午前10時～正午

会場：文京シビックセンター3階

障害者会館 AB 会議室

1 開会

2 議題

（1）権利擁護専門部会における取組みについて

（2）その他

【配付資料】

開催次第

資料第1号 文京区障害者地域自立支援協議会権利擁護専門部会委員名簿

資料第2号 権利擁護専門部会での検討テーマ案

3 閉会

文京区障害者地域自立支援協議会 権利擁護専門部会委員名簿

敬称略

役職名	委員名	所属機関・団体・施設名
協議会会長	高山 直樹	東洋大学 福祉社会デザイン学部 教授

親会委員	新堀 季之	社会福祉士(高齢者あんしん相談センター駒込センター長)
〃	清水 健太	文京地域生活支援センターあかり 施設長
〃	北原 隆行	文京槐の会 は〜と・ピア2施設長補佐
委員	武長 信亮	弁護士・社会福祉士・精神保健福祉士
〃	皆川 譲	文京区障害者就労支援センター 主任
〃	荒木田 紘子	文京区障害者基幹相談支援センター
〃	坂井 崇徳	弁護士
〃	箱石 まみ	司法書士
〃	吉野 文江	文京区民生委員・児童委員協議会 駒込地区副会長
〃	賀藤 一示	知的障害者相談員
〃	篠木 一拓	文京社会福祉士会 事務局長
〃	平石 進	文京区社会福祉協議会 権利擁護センター係長
当事者委員	天野 亨	当事者委員
〃	久米 佳江	当事者委員
区 委員	福田 洋司	障害福祉課 身体障害者支援係長(身体障害者福祉司)
〃	須田 浩史	障害福祉課 知的障害者支援係長(知的障害者福祉司)
〃	田中 利奈	予防対策課 保健指導係長(保健師)
〃	柳瀬 裕貴	予防対策課 予防対策主査(保健師)
〃	宮原 駿一	福祉政策課 地域福祉係長

事務局	石樵 さゆり	文京区社会福祉協議会 事務局次長
事務局	伊藤 真由子	文京区社会福祉協議会 権利擁護センター
事務局	新井 未来	文京区社会福祉協議会 権利擁護センター

- 第1回権利擁護専門部会議事録および他部会の委員からの聞き取り内容をカテゴリー分けしたものを掲載
- 今後の流れ ①第2回権利擁護専門部会にて、検討テーマ案記載のカテゴリーから、テーマを絞る
- ②障害者自立支援協議会当事者部会員からの意見を加味し、第3回権利擁護専門部会にて検討テーマを決定

カテゴリー	内容	補足
後見関係	制度利用の促進	
	相談支援機関と後見人との連携	
	地域の専門職を活用できるような仕組み	後見分野において地域や地元の専門職を巻き込み活用できる仕組み
	市民後見人の啓発	
	専門職後見人と市民後見人との違いや制度のメリット／デメリットの周知	8 0 6 0 などのケース対応に向けて
	後見制度について医療機関等への周知	
	ガイドブック（令和6年度権利擁護専門部会にて作成）の活用方法について検討	実際に利用しモニタリングしながら活用方法について検討
権利侵害	虐待が起こる構造について	津久井やまゆり園の事例から議論
	虐待・権利侵害発生後の支援体制の継続的フォロー	
	虐待通報の流れ、相談、管轄による相談先が異なるものの窓口統一	
	不動産の押し売り、リースバック等の消費者被害	権利侵害や第三者との不当取引等
	地域での孤立・社会的排除（つながりの弱さ）	一人暮らしや家族の高齢化による孤立化が進み権利侵害が見えにくくなっている／親なき後の自己決定の尊重
	支援者・家族への権利擁護の理解不足	本人の安全を守ることと権利を尊重することのバランスへの迷い／必要以上の支援や制限が本人の権利侵害につながる可能性
住まい	住まいの問題（施設・GH以外の選択肢）	
	一人暮らしの地域サポート	ガイドブックの啓発を通じて課題が発生する前に情報提供し、地域の支援者とサポート
意思決定支援	家族や支援者による代行決定	
	意思形成のための経験と環境整備	失敗も含めて経験できる機会の保証とそれを支える地域資源
	支援者の理解や力量・関係機関との連携により支援が左右される	
	自己決定の仕組み	
その他	障害がある方の投票支援活動	
	情報リテラシー	
	情報格差	「理解できる情報提供」の欠如／過剰な情報を見極めの難しさ／公的情報のわかりにくさ・届きにくさ
	若い世代の福祉教育	中学生などの若い世代に授業の中で権利擁護を学べる環境
	支援者・保護者・関係機関が”連携ありき”で動けるような仕組みづくり	異なる支援方針から生じる混乱・当事者が置き去りにになっている状況
	障害のある方への理解	
	声が挙げられない当事者や家族の意見の吸い上げ方・受援力を持ち合わせていない方の支援方法	

- 第1回権利擁護専門部会議事録および他部会の委員からの聞き取り内容をカテゴリー分けしたものを掲載
- 今後の流れ ①第2回権利擁護専門部会にて、検討テーマ案記載のカテゴリーから、テーマを絞る
②障害者自立支援協議会当事者部会員からの意見を加味し、第3回権利擁護専門部会にて検討テーマを決定

カテゴリー	内容	補足	
後見関係	制度利用の促進		
	相談支援機関と後見人との連携		
	地域の専門職を活用できるような仕組み	後見分野において地域や地元の専門職を巻き込み活用できる仕組み	
	市民後見人の啓発		
	専門職後見人と市民後見人との違いや制度のメリット／デメリットの周知	8 0 6 0 などのケース対応に向けて	
	後見制度について医療機関等への周知		
	ガイドブック（令和6年度権利擁護専門部会にて作成）の活用方法について検討	実際に利用しモニタリングしながら活用方法について検討	
権利侵害	虐待が起こる構造について	津久井やまゆり園の事例から議論	
	虐待・権利侵害発生後の支援体制の継続的フォロー		相談部会 （樋口さん）
	虐待通報の流れ、相談、管轄による相談先が異なるものの窓口統一		
	不動産の押し売り、リースバック等の消費者被害	権利侵害や第三者との不当取引等	
	地域での孤立・社会的排除（つながりの弱さ）	一人暮らしや家族の高齢化による孤立化が進み権利侵害が見えにくくなっている／親なき後の自己決定の尊重	相談部会 （樋口さん）
	支援者・家族への権利擁護の理解不足	本人の安全を守ることと権利を尊重することのバランスへの迷い／必要以上の支援や制限が本人の権利侵害につながる可能性	相談部会 （樋口さん）
住まい	住まいの問題（施設・GH以外の選択肢）		
	一人暮らしの地域サポート	ガイドブックの啓発を通じて課題が発生する前に情報提供し、地域の支援者とサポート	
意思決定支援	家族や支援者による代行決定		相談部会 （樋口さん）
	意思形成のための経験と環境整備	失敗も含めて経験できる機会の保証とそれを支える地域資源	子ども部会 （向井さん）
	支援者の理解や力量・関係機関との連携により支援が左右される		相談部会 （樋口さん）
	自己決定の仕組み		就労部会
その他	障害がある方の投票支援活動		
	情報リテラシー		
	情報格差	「理解できる情報提供」の欠如／過剰な情報を見極めの難しさ／公的情報のわかりにくさ・届きにくさ	子ども部会 （向井さん）
	若い世代の福祉教育	中学生などの若い世代に授業の中で権利擁護を学べる環境	
	支援者・保護者・関係機関が”連携ありき”で動けるような仕組みづくり	異なる支援方針から生じる混乱・当事者が置き去りになっている状況	子ども部会 （高山さん）
	障害のある方への理解		
	声が挙げられない当事者や家族の意見の吸い上げ方・受援力を持ち合わせていない方の支援方法		子ども部会 （勝間田さん） 権利擁護部会